



おのゝ
おのゝ
かき

定僧二銭五厘

第六号

明治六年十月

通社出版

73
6758
3



門 7 3
6758
3

此書と官小を以て徴せしむるを得たるは下にて以て控有に於て
 太政官は極意を重蒙婦女あり亦知せしむるに為め
 老後の心あり願はるゝあまぬく趣近村里の
 きたるを自後傳寫の誤を併せり訓讀の字を省き
 ちぐく連合の民ありんと欲し覺若固く此意以辨
 く四ノ及作拾せん奉りて御
 當時茂元果より一月引更り此を一割引一三年外二割引
 右割合を定めて金并郵送貨交ありか郵便より送るに
 通明社役員
 中村庄助

兼藤 榮氏 贈
 昭和十八年十月十九日 寄

地租御改正ニ付地方官心得書御布達
 ノ内人民へ示スベキ箇條鈔録

第四十章

税法改正ニ因り地價ヲ調理スルハ都テ舊來ノ貢額ニ
 拘ハラズ銘々實際賣買スベキ見込ノ價左ノ雜形ノ如
 ク書載シテ進達スベキ旨村々へ布達スベシ
 雜形

何番
 字何
 田何反歩

何之

此收獲米何程

地價何程

但種肥其外諸費ヲモ引
去ラズ一作又ハ兩毛作
トモ總テ其地一歳ノ收
獲ヲ舉ゲ可シ

何番
何字
一畑何反歩

此收獲品何程

但畑ハ麥桑茶藍ノ類總テ
右同人印
小作人某印

地價何程

但小作金米何程

其品ノ數量判然タルモノ
ハ悉ク記載スベク其品柄
ニヨリ其量ヲ記シ難キモ
ノハ收利ノ代金ヲ記ベシ

何番
何字
一屋敷何反歩
地價何程

右同人印

如かく此この一ひと人びと別べつニ相あ認い一いつ村そんノ合ご計けい左ひだりノゴトク

仕し譯やくスベシ

合あ何な拾ちゅう何な町ちやう何な反はん何な畝ぶ何な步ぶ但たゞ何な尺しゃく何な竿さん

地ち價け何な万まん何な千せん何な百ひやく何な拾しゅう何な圓えん何な拾しゅう何な錢せん何な厘りん

内

一ひと田でん何な反はん步ぶ

地ち價け何な程ほど

内

反はん別べつ何な程ほど

此この收しゅう獲くわく米まい何な程ほど

地ち價け何な程ほど

自じ作さく

反はん別べつ何な程ほど

此この收しゅう獲くわく米まい何な程ほど

地ち價け何な程ほど

小こ作さく米まい何な程ほど

小こ作さく

一ひと畑へつ何な反はん步ぶ

地ち價け何な程ほど

内

反はん別べつ何な程ほど

此この收しゅう獲くわく品ひん何な程ほど

地ち價け何な程ほど

自じ作さく

反別何程

此收獲品何程

地價何程

小作金何程

小作

一屋敷何反歩

地價何程

外

一持山何反歩

如此種類ハ持主仕譯帳別段
ニ仕立ベキ事

地價何程

一林何反歩

地價何程

右ハ今般税法御改正ニ付私共村方銘々持地反別代

價等可ニ申上旨御達シニ付私共立會從前隱田切開繩

伸ノ類マダ地毎ニ取調箇所落ハ勿論隱歩等一切無

御座且取揚米並小作米等聊詐欺儀不奉申上候若

心得違ノ儀有之後日相顯ハルニ於テハ如何様ノ

御處分有之候トモ毛頭申分無御座候依之地主一同

調印ヲ以奉申上候以上

年号月日

何府知事 何某殿

何國何郡何村

百姓惣代

何某印

戸長

何某印

第四十一章

右雛形ヲ作為スルニ當リテ左ニ記スル第四十二章ヨリ第四十四章ニ至ル箇條ヲ管内へ布達シ調理ノ際

指アラシムルヲ勿レ

第四十二章

一村中古檢新檢入交リ竿繩長短アルモノハ合計ノ内何反歩ハ何尺竿何町歩ハ何尺竿ト記載セシムベシ

第四十三章

地代金ハ一ケ年收獲ノ内種肥代其外諸費ヲ引去全ク地主所得トナルベキ米金ヲ其村從前賣買仕來ノ利息割合ヨ以テ現今互ニ賣買スベキ者ト看做シ見込ノ代價ヲ記載セシムベシ

第四十四章

雜形ニ記セハ收米ハ是迄年々其地ヨリ登量ノ惣數
ヲ擧グベシ尤モ其年々豊凶ニ依テ一定ナラズト雖モ
平年作柄ヲ正實ニ書出サシムヘシ

下ノ漢字...
口十三...
...